

者だけでなく、多くの町民の皆さんのご理解とご支援が不可欠でありますので、今後ともご協力よろしくお願いいたします。

有害鳥獣被害防止対策の状況

エゾシカをはじめとする有害鳥獣により、年々、農産物への被害が深刻化しておりますが、平成22年度の町内における被害の状況と平成23年度からの防止対策による駆除の状況並びに狩猟免許取得助成などの支援事業の実績等の2月末現在の状況について、ご報告いたします。

まず、平成22年度における被害状況ですが、牧草、水稲、デントコーンを中心に約1億5513万円となっており、特に、酪農、肉用牛、軽種馬の飼料作物被害の約7割がエゾシカの被害によるものであります。

この被害が及ぼす影響を昨年、日高農業改良普及センターと連携し調査した結果では、粗飼料で約3割強、草地在常時被害を受けることにより、牧草の栄養価や地力も大幅に低下することから損失は合わせて約5割強となることとあります。

さらに、粗飼料の栄養価を補うための配合飼料費の増加や乳量、乳質の低下、発育不良さらに、施肥量や草地更新に係る費用増など経営の根

幹に係わる被害が出ているところであります。

次に、駆除の状況ですが、被害の大きいエゾシカの駆除頭数は平成22年度では1200頭となっております。

本年度は、猟友会との連携を図り、ハンターに対する駆除奨励金等の増額や残滓対策を行うことで、駆除頭数は本年2月末実績で、1900頭となり、前年度より700頭増となっております。

また、本年度から高齢化に伴い狩猟免許所持者が減少していることから、免許の取得費用全額を助成し、駆除従事者増を図っているところであります。

その取得状況は23年8月に12名、本年2月には10名と、合わせて22名の方が罾並びに猟銃の狩猟免許を取得しており、取得費用支援として25万8185円の助成を行っております。

中でも、農業者の方の免許取得を農協との連携により促しておりますが、今年度は14名の方が免許を取得し、所有地内でくくり罾を使用し数多くのエゾシカを駆除し大きな成果を上げており、このことは農業者自ら有害鳥獣被害防止対策を行うという意識が高まってきているものと思われま

す。次に猟銃取得費助成であります

で就職希望者が1名となっております。

新学希望先は、静内高等学校24名、道外私立高1名、JRA競馬学校1名、道内公立校7校へ21名の希望で、2月21日現在、6名の合格が内定しております。

なお、3月6日・7日に学力検査が行われ、合格発表は3月16日の予定となっております。

次に学級編制についてですが、学級数では、今年度と同じであり、児童数は、小学校全体で303名となり前年度と同じ、中学校の生徒数は145名で前年度より2名増となっております。



2点目は、確かな学力の育成についてであります。

9月に実施した、全国学力・学習状

第1種並びに第2種狩猟免許取得された方で、駆除用に初めて散弾銃、ライフル銃などを購入される方に対し、購入費の一部を助成するもので、本年度は1名の方に20万円補助しているところでありま

す。次年度からは、罾免許取得者の増加によりくくり罾によるエゾシカ駆除が増加していることから、罾にかかった際の殺傷処分を安全に行うことができるよう、大口径の弾が使用可能な高性能空気銃購入に係る助成も行い、軽種馬飼養地域での爆音による不慮の事故防止対策と効果的な駆除を支援してまいります。

今後は、今年度の取組の結果を猟友会等関係者ともに十分に検証し、次年度に向け猟銃やくくり罾による安全な駆除や電気柵の設置などを推進し、農業被害の防止を図る所存であります。

整形外科専門医師の採用

国保診療所は現在、内科・小児科・整形外科・外科の4診療科を標榜し、一次医療圏における本町唯一の医療機関として町民の医療ニーズに応えるため、3名の常勤医師と出張応援医師により医療の供給体制を整備し、良質な医療を効率的・効果的に提供することを心掛けて対応しているところであります。

況調査における学力調査の結果について報告いたします。

全道と本町の調査結果について比較しますと、小学校算数科では、全道平均を上回っており国語科ではやや低かったものの全道平均との差が縮まってきており、2教科を総合すると、ほぼ全道平均に位置する結果となりました。

中学校では、国語科、数学科とも全道平均より4から6ポイント上回る結果となり、全道の上位に位置する結果となっております。

次に、平成24年度から中学校において本格実施される新学習指導要領への対応ですが、中学校においては、早い段階から移行準備を進めており、円滑な実施に向けて取り組んでおります。

特に、体育の授業において必修化される武道について、本町は柔道を選択することとし、指導する教員に対する研修を実施しておりますし、授業は、旧児童館の武道場を活用することとしており、柔道着については、保護者負担を軽減するため、町教委で用意することとし、業者からレンタルにより対応することとしております。

3点目は、豊かな心身の育成についてであります。今年も朝日小学校に開設し、体育の授業として12日間、72

この度、当診療所の外科医師である渡辺不二夫医師が3月末をもちまして退職することになりました。

渡辺不二夫医師は平成22年2月から小樽市の民間病院を経て、当診療所の外科及び整形外科医師として赴任され、以来2年1か月の間、外科系医師1人体制の中、当地域における交通事故及び軽種馬等による打撲骨折等、緊急時の外科系治療においてご尽力をいただいたり参りましたが、この度、諸事情により退職されることになりました。

これまで地域医療に精力的にご貢献いただきましたことに対し、心より厚く感謝申し上げます次第であります。

なお、渡辺不二夫医師の診療業務につきましては、3月9日（金）をもちまして終了することになりました。

当診療所における外科系診療につきましては、一次産業を中心とする本町の産業形態からも必要不可欠な診療科目と捉えておられ、4月には渡辺不二夫医師の後任医師として、整形外科専門医師が赴任することとが決定しており、4月中旬を目途に整形外科専門医師による診療を開始することとして諸準備を取り進めているところであります。

このため、一時期、外科医師が不在となり、診療を休止する期間が発生しました。9名の利用がありました。さらに1月下旬から土曜日曜の6日間の開放を行い、218名の利用がありました。

次にインフルエンザによる学級閉鎖についてですが、2月に入り、新冠中学校1学年が4日間の学年閉鎖となり、新冠小学校では、1学年と4学年がそれぞれ4日間の学年閉鎖となりました。幸い、感染の範囲が小規模で収まりましたので、授業時間は確保されております。

大きな4点目、信頼される学校づくりについてですが、新冠小学校では開かれた学校づくりの一環として、2月24日、「1日音楽の日」を実施しました。

初めての取組となる「1日音楽の日」では、レ・コード館を会場にミュージアムやレ・コードバンクの見学など、レ・コード&音楽による町づくりの特色を生かした体験学習を行い、保護者や地域の方々の出席も見られ、開かれた学校づくりの取組となりました。

次に、学校経営の充実についてであります。

老朽化により、早急な改修が必要となっている、新冠中学校の窓枠サッシの改修についてであります。先の平成23年第4回定例会に設計委託料を計上し、平成24年度に改修工事を計画していたところですが、国

教育長行政報告

学校教育の推進

はじめに、学校教育の推進状況について申し上げます。

1点目は、新冠中学校卒業生進路希望状況ですが、進学希望者は47名